多自然川づくり取り組み事例

タイトル	効率的な維持管理を目指した中小河川の掘削断面について		
水系／河川名	番匠川水系/井崎川	河川分類	中小河川
河川の流域面積	45.6km2	整備計画流量	620m3/s(W=1/30)
セグメント	2-1		
事業	維持管理	事業開始年度	平成27年度
目標設定	定性的	段階	D(実施・施工時)
課題・目的(主な)	流下能力の確保、瀬・淵の保全・再生・創出		
工法(主な)	掘削(低水路)、掘削(河床)		
配慮事項(主な)	河川景観への配慮、施工管理、人材育成		

背景・課題、目標設定

<背景・課題>

井崎川では土砂堆積や植生の繁茂により流下能力が低下しているため維持掘削を順次実施しているところであるが、土砂の再堆積や植生の再繁茂が懸念されている。

<目標>

中小河川において効率的な維持管理を行うために、掘削断面の検討を行った。今回の検討によって維持管理のライフサイクルコストの縮減に努めるとともに、多様な水際線の創出や、親水性の向上を図っていく。

取り組み内容・対策例

・緩傾斜掘削を実施することで中小洪水時の水面幅が広くなるため、土砂をフラッシュさせる回数が増え、植生繁茂をすることができる。

・断面毎で掘削勾配を変化させることで多様な水際線を創出することができる。

ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ結果、ｱﾋﾟｰﾙﾎﾟｲﾝﾄ、今後の対応方針

・施工前は河道の二極化が進んでおり、単調な水際線(写真①)であったが、施工後は多様な水際線が形成されている(写真②)。

・施工直後に中小洪水があり、想定通り水面幅が広くとれることが確認できた(写真③)。中小洪水後に河道形状の大きな変化はなく、維持できていた。

・しかし、その後の大洪水により河床材料が一変した(写真④)。施工前ほどの単調さではないが、大洪水後の対応方策が課題であると考える。

備考

問い合わせ先	大分県佐伯土木事務所 河川砂防課 河川港湾班
電話番号	0972－22－3171